

つながる医療

血液内科 診療部長

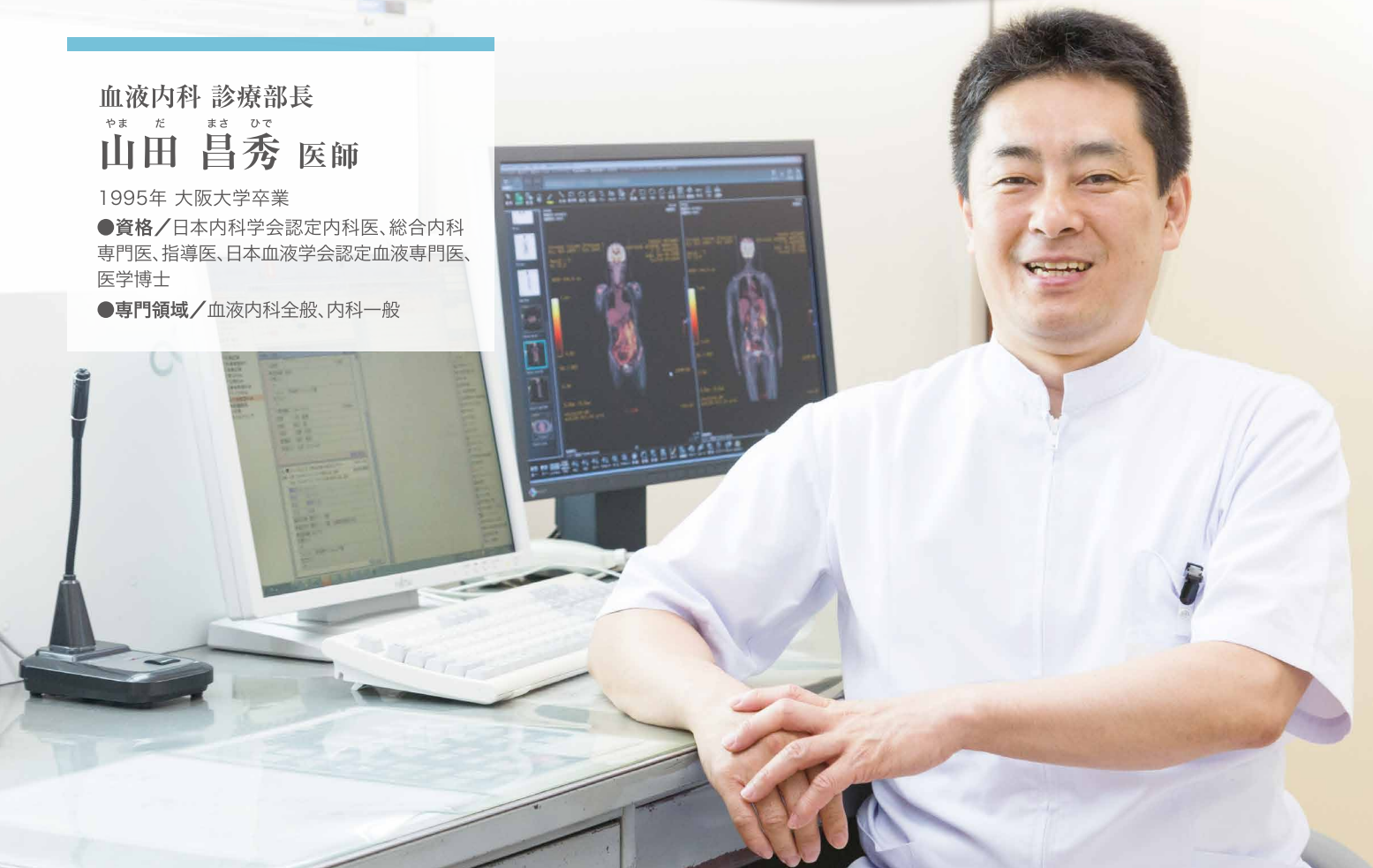
やま だ まさ ひで

山田 昌秀 医師

1995年 大阪大学卒業

●資格/日本内科学会認定内科医、総合内科
専門医、指導医、日本血液学会認定血液専門医、
医学博士

●専門領域/血液内科全般、内科一般



血液内科

常勤医が着任し、
入院診療を再開しました。
患者さまの回復に貢献するため
最新治療を取り入るよう努めています。

大雄会の血液内科では、平成30年4月に常勤医が着任し、
以前と同様の治療が提供できるように入院診療を再開しています。
診療の概要について、診療部長の山田昌秀医師に伺いました。



▲クリーンルーム



◀外来
化学療法室

総合大雄会病院の血液内科では、平成30年4月に常勤医師が着任し、以前と同様の入院治療が提供できるようになりました。

がん薬物療法認定薬剤師、がん化学療法看護認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師などのスタッフとともに、地域の患者さまが安心して治療を受けて頂けるよう心がけています。

JALSGのプロトコールに準じて治療を行います。65～70歳以上の高齢者においてはQOLを重視し、治療期間の短縮も検討します。同種造血幹細胞移植の適応症例は、近隣の移植施設へ紹介させていただきます。

チロシンキナーゼ阻害剤(TKI)：イマチニブ、ニロチニブ、ダサチニブ、ボスチニブ、ボナチニブを、年齢・合併症・保険適応に応じて選択します。著効例に対するTKIの中止に関しては、ガイドラインで推奨されるようになってからと考えています。

国際予後スコアリングシステム(IPSS)の

新規薬剤として、プロテアゾーム阻害剤(ボルテゾミブ、カルフィルゾミブ、イキサゾミブ)、免疫調節薬(サリドマイド、レナリドミド、ポマリドミド)、抗体医薬(エロツズマブ、ダラツムマブ)が使用可能です。ガイドラインに従い、保険適応、年齢・合併症に応じ治療法を選択します。若年者では自家末梢血幹細胞移植を行います。

血液内科領域においては、新規薬剤の開発や保険適応拡大が早いスピードで行われています。最新の治療を取り入れて患者さまの健康に貢献していきたいと思っております。健診での異常なども、お気軽にご紹介いただければと思います。また緊急を要する症例に関しては、外来診察日以外もできる限り対応させていただきますので、地域医療連携室まで連絡いただければ幸いです。

詳しくは、地域医療連携室までお電話ください。

tel. **0586-26-2366** (直通) fax. **0586-24-9999**

tel.0586-72-1211(代表) ●受付時間:月～金8:30～19:00 土8:30～12:30 ※祝日、年末年始除く